

# 画像上アノテーション 支援ツール

# 3つのGUIアプリ

- (1) 画像の中をクリック→座標を保存
- (2) (1) で保存したそれぞれの位置についてタグ付け
- (3) (よしなに分類したあと) 分類ごとに画像をグループ表示

# 1. マーキング

- 初期起動時に使用するデータ
  - 画像ファイル群（フォルダにまとめておく）

# 画像をクリックする

## 基本機能

- 画像の上でクリック  
→クリックした位置が保存される
- リストで削除も可能
- その画像が済んだら「次へ」
  - 進捗管理ファイル操作でやり直しもできる（後述）
- 「次へ」で状態保存
  - 最後の画像でもそこを押して保存



## + 機能

- ファイル名とタイトルのリストがあれば、  
画像の上にタイトルを表示
- 右下に進捗を表示
- 「励ましの言葉」リストがあれば  
左下に「励ましの言葉」をランダムに表示

▶ 次へ

終了

この作業、あなたがいなかつたら大変だった。

進捗: 1個目 / 5個

# すべて終えてから起動した場合

- 「すべての画像を処理しました」となる
- 進捗情報を管理するCSVファイルを削除すれば、やり直せる
  - そのときは、すでに保存されているクリック位置情報が読み込まれる
- ※なお、途中でも、特定の画像をやり直したくなったら、CSVファイルを開いてそのファイル名に対する進捗情報の値を1→0に変えれば、アプリ再起動でやり直せる



## 2. タグ付け

- 使用するデータ
  - 画像ファイル群 (1つのフォルダ内にまとめておく)
    - ※1でマークしたものだけ読み込まれる
  - 位置マーク情報 (1で作成したものをそのまま使える)
  - タグ候補リスト
  - (使うなら) ファイル名とタイトルのリスト

# タグ付け

- クリック位置情報が与えられたら
- 各画像についてそれぞれの位置に対するタグ付けを行える



# タグ付け

- 中央画像欄
  - マークした箇所のあたりに「○」が出る



# タグ付け

- 左側ファイルリスト

- クリックで直接該当ファイルのタグ付けに飛べる
- タグが1個でもあると[与]マークが右に付く



# タグ付け

- 左下ガイド欄

- プログラムのソースを  
いじれば  
表示したい文言を変えられる
- タグ付けの基準表示に



# タグ付け

- 右側タグ付け欄
  - 複数あるときは  
縦に並ぶ
    - スクロールバー付き
    - 背景色を変えて、  
混同しにくく  
(↑混同したので  
設定した)

指定した位置に対するタグの設定：

IMG3：同種複数

(位置割合: 0.205, 0.618)

システム登録タイトル以外  
 出現個数：単独  
 出現個数：複数  
 出現個数：同種複数  
 FS：最大  
 グループ：最大FS含有  
 グループ：最大FS含有以外  
 方向：縦書き  
 方向：横書き  
 方向：縦書きに添える  
 方向：横書きに添える  
 方向：それ以外  
 書体：手書き風（曖昧）  
 範囲：色分離（背景色違い・吹き出し等）  
 装飾：文字色が#のみ異なる

(位置割合: 0.537, 0.630)

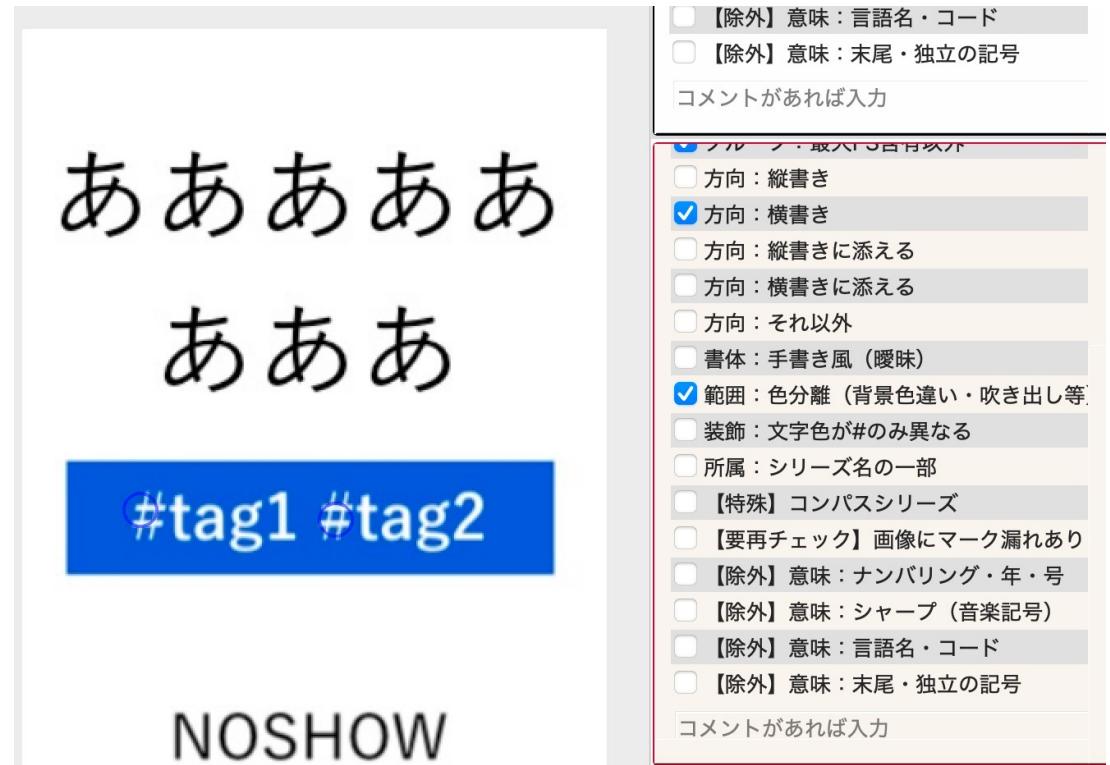
システム登録タイトル以外  
 出現個数：単独  
 出現個数：複数  
 出現個数：同種複数  
 FS：最大  
 グループ：最大FS含有

NOSHOW

← 戻る 次へ → 保存 終了

# タグ付け

- 右側タグ付け欄
  - コメント欄もあり



# 止めたくなったら

- 右下で「保存」ボタンを押すか  
前後に移動してから「終了」  
するのが安全なはず
  - 一応左右移動時や  
チェックを増やす時などに  
オートセーブするはず

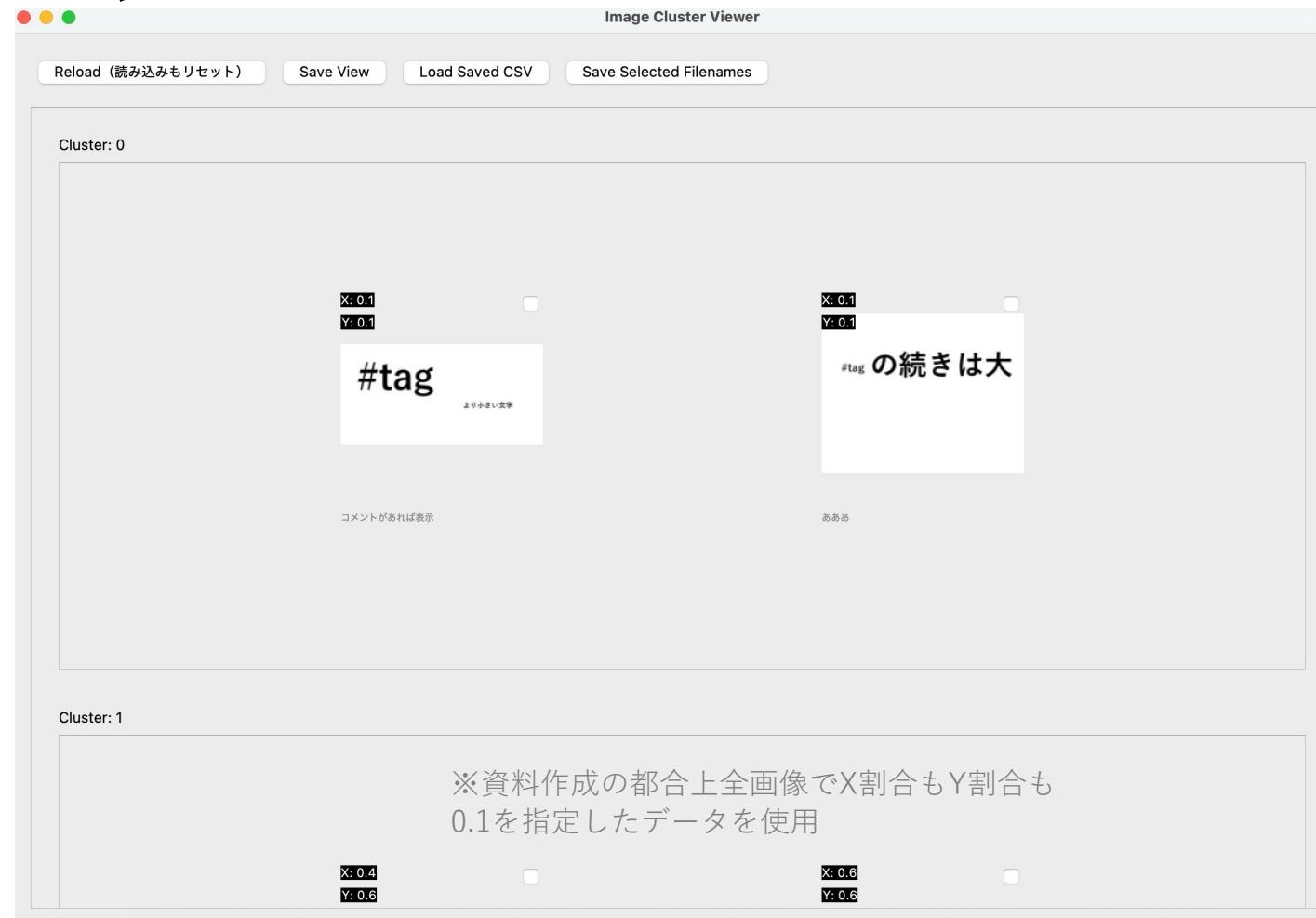


### 3. クラスタごとの表示

- 使用するデータ
  - 画像ファイル群 (1つのフォルダ内にまとめておく)
    - ※1でマークしたものだけ読み込まれる
  - クラスタ情報も入れたリスト
  - (使うなら) NOSHOWリスト

# クラスタごとの表示

- 割当クラスタごとにサンプルを（指定枚数以下）表示
- 非表示画像の指定も可能
- 他の設定
  - 最初から/ランダム
  - ファイル名重複時1枚だけ出すか



詳細：  
座標割合, コメント欄, チェックボックス



# クラスタごとの表示



## 保存機能

現在表示しているエントリの  
保存/読み込みができる  
→いいビューが出たら  
それを使える



## チェックしたファイル名一覧の 保存機能

→アノテーションミスを  
発見したときに,  
どのファイルなのかを  
わかりやすくする